

# 諏訪地方社保協 ニュース

諏訪地方社会保障推進協議会  
2023年11月20日発行  
10 - No.4  
下諏訪町矢木町214 南信勤医協内  
TEL : 0266-28-3071(代)  
メール : suwasyahokyo2021@skhp.or.jp  
ホームページ : “諏訪社保協”で検索

## 自治体キャラバン 要望書提出

社保協は今年の自治体キャラバンの要求書を決定し、  
11月16日、各市町村長・広域連合長へと提出しました。

提出した要望書（全文は社保協 HP に掲載）

今年の要望の概要について記載します。

### ① 「健康保険証」の廃止方針について

マイナンバーカードと健康保険証の一本化方針に、住民不安は払拭されておらず、このままで廃止された場合、国民皆保険制度を脅かすものとなり、各市町村から国に対して現行保険証の存続を求める事。さらに、この根本は国民に総背番号を振り、行政の合理化を進める自治体DXの医療分野への導入です。これまで各自自治体が培ってきた先進的な社会保障制度が自治体システムの標準化により、後退することのないようにすること。

② 医療・介護・福祉の提供体制への支援について  
新型コロナウイルスの感染症区分の5類移行後も医療現場では感染が広がっており、物価・水光熱費の高騰も含め支援の強化を。公立・公的病院が夜間・救急・周産期・小児医療などの「地域住民のいのちと健康を守る砦」としての役割発揮ができるよう充実させること。等

### ③ 国民健康保険制度の改善について

貯め込んでいる国保の基金の活用や、市町村一般会計からの法定外繰入を行う等により国保税（料）を引き下げる事。等

### ④ 後期高齢者医療制度について

医療費2割化は高齢者の生活を直撃しており、1割負担に戻すよう求め、保険料滞納による差し押さえ件数等の公表とともに、短期証や資格書の発行をしない事。等

### ⑤ 介護保険制度の改善について

②同様に新型コロナ5類移行後も、感染拡大が止まっているわけではなく、物価高騰が経営の逼迫に拍車をかけており、介護事業所への財政支援等を行うこと。第9期介護保険事業

計画の策定にあたり、利用料原則2割化や要介護1,2の総合事業への移行、多床室の室料負担の新設等、現在、厚労省の部会で新たな国民負担増とサービス低下が懸念されており、これらを止めるよう国に要望すること。また、諏訪広域では介護保険の基金が13億円にも達しており、これを活用して、保険料の引下げ、諏訪地域での介護職員の不足や育成を行うことなどを広域連合に求めること。等

### ⑥ 生活保護の改善について

医療扶助・医療券を受ける条件にマイナカードの取得を強制しないこと。また、市作成の「生活保護のしおり」が、利用者の立場に立った憲法25条の「健康で文化的な生活を保障する」中身になっておらず、自動車保有についても、今日の到達点である、公共交通機関の利用が著しく困難な場合の通勤や通院等では認められることがあることや、125cc以下の原付は認められることがある等の記載もなく、「自動車は処分すること」のみ強調されていることや、通院の移送費、クーラーの設置等も未記載で、あたかも保護認定を阻むような（水際作戦）記載は改めること。等

### ⑦ 福祉医療給付制度について

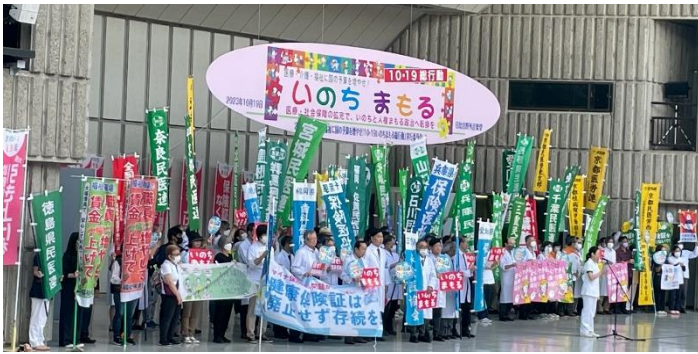
子ども医療費は高校卒業まで完全無料化すること。障がい者も含めて医療福祉全体を現物給付とすること。

### ⑧ その他要望

学校給食費の無償化、補聴器の購入助成制度創設、年金生活者への冷暖房費に対する補助制度の創設をすること。等

文章回答を1月15日としました。その後自治体幹部との懇談を日程化していきますので、各市町村との懇談時には対応する関係者の出席をお願いします。

## いのちまもる総行動 10.19 に 参加しました(日比谷野音)



医療・社会保障の拡充で、いのちと人権まもる政治への転換を



隣の厚労省に声がとどけ！(左)、 通行客にアピール(右)

10/19、東京・日比谷野音で「いのちまもる総行動」が開催されました。久々の中央集會に会場は満員。オンライン含め、全国 3 千人を超える人々が参加しました。諏訪地域からは諏訪地域民医連がチャーターしたバスで 24 名が参加しました。

オープニングでザ・ニューズペーパーが自民党の岸田首相、菅前首相、日本共産党の志位委員長に扮したコントを披露。リレートークでは、千葉の介護福祉士が「コロナ禍で介護を必要とする人々の生活を支えてきた介護職の頑張りは限界に達している」と発言。岸田首相の示した介護職月 6000 円の賃上げ方針に「ゼロを 1 つ付け足して、早急に国の責任で全産業平均並みの給与水準まで引き上げ、介護職の確保につなげよう」と訴えました。

閉会にあたり「医療・社会保障の拡充で、いのちと人権を守る政治への転換を」とシュプレヒコール。「集會アピール」を拍手で確認しました。銀座へのパレードでは「健康保険証なくすな」などのシュプレヒコールを行い、沿道からも「そうだ！」「頑張って！」の声援が寄せられました。

## 広域連合議会への陳情は不採択

10/10 開催された広域連合議会福祉環境委員会で、諏訪地方社保協提出の「介護保険制度の改善を求める陳情書」と「介護保険料を引き下げる陳情書」の審査が行われ、事務局長が意見陳述を行いました。委員会では、介護保険サービスの利用者負担の「2 割負担」の対象拡大を中止し、現状維持することや、保険からはずされた食費や部屋代などの自己負担増を軽減すること。等を説明し、介護保険料引下げに関しては、「全国では介護保険料の滞納による差押えが、10 年前に約 7000 人だったものが、コロナ感染拡大後の今は 2 万人に増えている。諏訪地域では保険料を引き上げた結果、13 億 7 千万円も基金が使われずに貯めこまれており、このお金は苦しい生活を強いられている高齢者に還元すべきものであり、第 9 期計画ではこの基金の活用で保険料を引下げること」や、不足している介護従事者を諏訪地域で増やすよう基金の活用も提案しました。委員会審査の結果は賛否同数（賛成委員：早出岡谷市議、大津諏訪市議、望月茅野市議、花岡下諏訪町議、（いずれも共産党）と木村茅野市議（無所属）の 5 名）で、委員長（樽川下諏訪町議長）裁決で、残念ですが両陳情とも不採択（本会議も同様に賛成 5 名）となってしまいました。

## 11.11 介護の日 諏訪地域民医連 介護ウェブ街頭署名行動



11/11、諏訪地域民医連の介護ウェブ推進委員会は「介護保険制度の改善、介護従事者の処遇改善を求める請願署名を諏訪市綿半スーパー前で行いました。当日は一気に真冬になったかのような寒さの中、約 20 名が集まり、買い物客にたいして、安心して利用できる介護保険制度にするため、介護従事者の処遇改善で人員不足の解消、報酬改定などを訴えました。地元マスコミ、CATV なども報じました。